



おかげさまで11期目を迎えることができました。皆様のご愛顧に感謝いたします。



エコバウリフォーム・ニュース

12月号 * エコロジー x バウジオロジー (建築と生態学を融合させた人間中心の建築設計です)

英国&ドイツ環境共生都市視察／第5回 ドイツ・フライブルクの【ハスラッハ地区】

ドイツ・フライブルク市内からトラムで約15分のハスラッハ地区。100年前のゲートンクは(集合住宅)英国のガーデンシティの影響を受け、1920年に作られたドイツ版のガーデンシティ(ガルテンシュタット)。近年、注目が集まりフライブルク大学のマイヤー教授らの調査が進められました。現地在住、環境ジャーナリスト村上敦氏により我々の参加が実現となりました。扇形の地形に作られたガーデンシティは、3階建ての組積造。連続住宅が並行し住棟の前後にクラインガルテン(菜園)を配置した住宅地です。住棟間に幅60メートル以上の広い公園があって、向かい側の住戸が強く意識され並行配置の欠点を感じません。6x40メートルが基本的敷地設計、建築面積は65~70㎡、フロントヤードには縦長の十分なガーデンが存在して緑豊かな玄関へのアプローチとなっています。各戸の延べ面積は70㎡とやや狭いものの、フライブルク中心地まで近いこと、豊かな近隣公園や敷地の菜園がある住宅ということとで現在も人気の住宅地です。この住宅地が持つユークレイン様式(英国のフーズ&クラフツや仏のアルヌヴェー)の漆喰塗り壁が、ドイツ人好みの穏やかな郊外住宅の環境を形成しています。100年前の住宅地でありながら、未だに人々の心を「ハスラッハ地区」はつかんでいるようです。

100年前のテラスハウスによるガルテンシュタット(ガーデン・シティ)

ハスラッハ地区のこの住宅地は、町全体の基本計画とそれを忠実に遵守した建築が未だに並び、100年を経ても人々の高い評価を受け資産価値も上がり続けています。フライブルク市が所有する賃貸区分の入居は、子供が2人以上いることや親族への継承居住を認めていることもあって、ウイティング(入居待ち)も多い住宅地です。英国や米国同様に欧米諸国では外観の改修やイクスぺンションは許されず建物で個性を出すことは限られます。これが統一した素材と色彩で「美しい」と感ずる欧米諸国の街並みを形成して来ました。

しかし、現在多少の変化が表れています。屋根の素材や壁の色が微妙に違う点です。賃貸ではなく分譲のこの区画では、玄関ドアにも持ち主の個性が微妙に協調され始めています。この現象は英国のガーデンシティ同様ですが、100年経過しても、少しも色あせず資産価値が向上し続ける秘密は、住宅地の経営管理手法が確立されているからです。わずか数十年でスラップ&ビルトを繰り返し、新築で住宅産業を潤し、固定資産税の増額を狙う日本とは真逆の住宅地が英国とドイツにはありました。取材 (株)アップル大竹喜世彦



マイヤー教授とハスラッハ地区にて



緑豊かなガルテンシュタット



連続3階建てアタッチドハウス形式



連続住宅どうしが向かい合い道歩きも楽しい雰囲気



フライブルク大学マイヤー教授



フロントヤードの伸びやかな菜園



所有形態が分譲と賃貸が混在外壁に変化も見られる



外観の制限は英国と同様ガーデンで個性を出している

【建築と生物学】を結ぶ【バウジオロジー建築】

日本には自然とかわる【しつらえ】に親しみ自然と共に暮らす習慣がありました。
『エコバウ・リフォーム』は自然素材を多用する私達の考えが詰まった
『エコロジーで健康』なコンセプトリフォーム。アップルで推進中です!!



「既存住宅の省エネ」は、日本を劇的に「省エネ化」できる!

新築70万戸より既存住宅5000万戸の省エネが急務

スマートハウス化の危うさ

3.11後の日本のエコハウスの現状は官民とも「スマートハウス」「スマートシティ」の取組を加速しています。スマート化は節電対策と経済効果を生む点がプラスとしても危うさを感じます。まず建物の省エネを進めるべきなのに設備と計算上のやり取りでゼロエネルギーを目指すのは本筋とは言えません。最大の危うさはスマート化のゴールである住宅と町の家電化、ロボット化への懸念です。スマート化は快適・省エネを出来るだけ自動的に行う事を目指します。自動化すればするほどシステムは複雑で大きくなり「中央集権的」になります。これは「原発」と同じ構造でリスクは最大です。自動化された暮らしは本当に楽しく豊かなのでしょうか?



View: フライブルク

スマート化は映画「ホームアローン」のように破綻

人は自分が関われば関わるほど楽しくなり愛着も湧いてきます。家庭菜園やヴェンテジカーはその典型で家も同じでしょう。ICの基本は「長く大切に使うこと」で原点は「愛着」にあるでしょう。自動化はそれを奪うことにならないか危惧しています。スマート化や中止のオール電化のような大きな機械装置で省エネする技術「アクティブ(積極的)」に対して、私達の進めるパッシブは出来るだけ少ないエネルギーで自立するシステムをベースに自然に寄り添って生きる知恵を目指します。パッシブデザインは建物の性能をきちんと高めたいうえで、地域の気候や敷地の特性を読み込んで自然エネルギーを活用し、足りない部分を設備で補う設計手法です。アクティブ型のスマートハウスは設備を付けるだけで自動制御を実現できますが、私達のパッシブデザインは多少のスキルと人出も掛りますが「人間らしい技術」で住まい手に家に対する愛着をもたらします。スマート化を全否定はしませんが、先に建物の断熱性能や自然エネルギーを優先するという順番を間違えないことが大切です。

自動化では得られない自然や日常を楽しみ、家に愛着を持って豊かに暮らしましょう。

★(株)アップル、社員が参加した講習会・イベント★

- 10/28(金)【日経住まいのリフォーム2011・東京 Big サイト】主催: 日本経済新聞社
- 11/ 3(木)【ゼロエミッション建築の最前線 at 浦和高校】主催: 日本建築学会埼玉支所
- 11/13(日)【第13回 霜月祭・奈良県御所市】主催: 御所市
- 11/22(火)【ネクストビルダーズフォーラム・住宅産業大予測2012】主催: 新建ハウジング



次回もアップル隊長の【ドイツ建築視察】のレポートお伝えします!!



弊社ホームページで毎日掲載中です。

●エコ建築&環境の取り組みは。。。アップル www.reform-apple.com イベント

ロハス・デザイン&エコロジー・リフォーム リフォームアップル自治医大店

ECOBAU REFORM ☎0120-393-897

栃木県下野市祇園1-20-1 〒329-0434
(自治医大駅東口・足銀すぐそば)
☎0285-44-8208 (fax共通)

リフォームアップル自治医大店 URL <http://www.reform-apple.com> ホームページで実例を多数ご紹介中。